

もの言う牧師のエッセー 第232話

「北海道新幹線」

3月26日、北海道新幹線が開業。その日の朝、知内側のトンネル出入口付近で、青森から北海道へ駆け抜ける一番列車を確認し、「やっと思いが遂げられた」と語るのは、今から51年前、北海道側から青函トンネル掘削作業を開始し、1988年にその開業を見た作業員で、今年81歳の角谷敏雄さんだ。北海道知内町と青森県今別町を結ぶ青函トンネルは、全長53.85kmで、交通機関用のトンネルとしては世界一の長さを誇る（本稿執筆現在）。しかし、「北海道に新幹線を通す」を合言葉にした大工事は難航を極め、まさに「命を削るような」ものとなった。

当初はトンネルボーリングマシンを使用して掘削していけば、ほぼ計画通りの工期で完成すると考えていたが、実際には軟弱な地盤のためスイス製の大型マシンは掘り進めていた坑道に沈んでしまった。手探り状態の工事は掘り進めるたびに出水し、ひどい時には毎分16トンもの海水がトンネルに流れ込み、ずぶ濡れになり、100mも掘れなかった年もあった。工事では計34人が死亡。角谷さんも仲間3人を失った。土砂崩れに巻き込まれた上司、作業車にひかれた友人、そして、生まれたばかりの子供を残し、掘削機に巻き込まれ命を落とした部下。彼の妻が遺体に泣きすがる姿に「何も言えなかった」。それでも、「掘り進めるしかない」と作業に集中し、ついには83年1月27日、班長を務めていた「角谷班」が北海道側の最後の発破を任せられ、当時の中曽根康弘首相が官邸で電話回線を通じスイッチを押し、爆音とともに岩の壁が崩れ先進導坑が貫通。「悲しみの上に完成した、新幹線のために造った青函トンネルだった。その開業から28年、ようやく新幹線が実現した。もう思い残すことはない」と振り返る角谷さん。

人生の難工事の中で四苦八苦してる人は多い。悲しみのどん底に突き落とされた人、大切なものを失った人、命を削る人など。。。しかし聖書は激励する。

「兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕えたなどと考えるはけません。ただ、この一事に励んでいきます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。」ピリピ人への手紙3章13-14節、

と。キリストを信じたら、その時からその人は信仰者として天にむけてトンネル掘削作業が始まる。最後はキリストがボタンを押し開通する。その時、キリストを信じる者は、やっと思いが遂げ

られ、感慨に浸るであろう。

2016-4-29

